

平成21年度学校評価結果報告書

(年度末評価)

平成22年3月31日

広島県立江田島高等学校

平成21年度自己評価シート(年度末評価)

校番	45	学校名	広島県立江田島高等学校	校長氏名	山下 憲邦	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 情報公開による地域・保護者と協働した教育活動を行う							
HP等を活用して積極的に情報を公開する	学期毎更新	学期毎更新	学期毎更新	19回	B	年間計画を大幅に上回っている。	生徒指導
保護者への情報提供をより積極的に行う	情報提供回数	3回	7回	7回	A	年間計画を100%達成した。	教務

【評価結果の分析】

- ・学校HPIに体育祭や文化祭等の学校行事毎に生徒の活動状況を載せ、それ以外にも事務からの連絡事項など幅広く情報を発信しており、情報発信の役割を十分果たした。
- ・学校での生徒の活動の様子や行事予定などの情報を保護者により細かく行うため、本年度から新たに江田島高校便り「古鷹山」を発刊している。これまで5月（2回）、7月、12月と計4回発刊した。また、PTA新聞を8月、10月、3月の計3回発刊した。保護者への提供回数年間7回の目標を達成した。

【今後の改善方策】

- ・閉校後も一定の期間はHPを存続し、各種証明書の発行等に混乱を来さないよう引継ぎ校の案内を行う必要がある。HP運営形態の具体的な検討が必要である。

2 一人ひとりの個性・適性・実態を的確に把握した個別指導を充実させる							
学習満足度調査を5教科で実施し、満足度85%以上をめざす	肯定的な回答	79.9%	85%	87.2%	A	目標値を達成している。	教務
教職員のスキルアップ・キャリアアップを推進する	指導理論に関する校内研修会の実施回数	新規	年1回	1	B	10月に実施予定であったが、3月の実施となった。	教務
	教職員研修年間計画の策定期	新規	5月末まで	6月に策定	B	年間計画を5月までに策定する計画であったが、6月にずれこんだ。策定後はほぼ計画通りに研修が行われている。	教務
	研修会のまとめをし、教職員に配布する回数	新規	年2回	1	B	年間2回、10月、2月の計画であったが、3月の実施となった。	教務

【評価結果の分析】

- ・昨年度の実績値より、約7ポイント上昇し、目標値を達成した。「授業を受けて『できた』『わかった』と感ずることがあった」という項目に対する肯定的な回答は91.5%、「できないところがあっても励ましてくれた」に対しては92.0%である。否定的な回答は「授業中できないときにはほめてくれた」が21.9%で最も多いが、1学期調査の34.0%と比べ、大きく減少した。
- ・教職員研修年間12回の計画を全て実施した。研修内容は、研究授業、発達障害、情報モラルなどである。

3 毅然とした生徒指導体制を構築し授業規律・生活習慣を確立する							
年間遅刻者数を延べ100人以下に減らす	年間遅刻者数延べ100人以下	年間延べ177人(現3年生のみ)	年間延べ100人以下	91人	B	目標人数は下回ったものの、まだ不十分。	生徒指導
服装・頭髪違反の減少	年間違反者数20人以下	22人	20人以下	6人	B	目標人数を大幅に下回っている。	生徒指導
規範意識の育成	主任等による生徒指導講話	年7回	年10回	8回	B	目標回数には届かなかったが、規範意識の向上が認められる。	生徒指導
学習習慣の定着を図る	試験対策プリントなどの発行回数(のべ)	新規	年間20回	22回	A	目標の回数を上回った。	教務

【評価結果の分析】

- ・遅刻については、毎日の登校状況を表にして掲示し、生徒の意識向上を喚起した結果、昨年度に比べて遅刻が大幅に減少した。また、生徒指導主事による講話、クラス担任の粘り強い指導も成果をあげた。
- ・服装や頭髪に関しては、校門指導をはじめ全教職員で意識統一して服装指導に取り組んだ結果、違反する生徒の数は大幅に減少した。
- ・昨年度から継続している取り組みとして、生徒指導主事以外にもさまざまな立場の教員が講話を行い、生徒の規範意識ややる気の向上を目指した。
- ・学習習慣の定着を図る取り組みとして、以下のことを行った。計22回。
 - (1) 試験のポイント・学習方法を伝える教務通信「チャレンジ」の発刊：10回
 - (2) 学習時間調査の実施：5回
 - (3) 課題等が未提出の生徒に対し個人リストを作成し、学習を促す：2回
 - (4) 定期試験対策として、授業で試験範囲の復習を行ったり、試験対策プリントなどを配付：5回

4 危機管理意識と危機管理体制を構築する							
危機管理意識向上のための研修会・訓練の実施	研修会の実施	年1回	年1回	1回	B	消防署と連携し、火災を想定した避難訓練を実施した。	生徒指導

【評価結果の分析】

- ・年度内に1回以上の実施で十分であろう。

【今後の改善方策】

- ・例年火災を想定して行っているが、地震が多発している現状もあり、地震や水害を想定した訓練の必要性も感じている。

5 生徒全員の希望進路の実現を図る							
生徒の適性を踏まえた進路目標を設定させる	1学期中に各自の進路目標の明確化	新規	100%	90.6%	B	志望校群あるいは希望職種を決めている者が9割を超えた。	進路指導
生徒全員が希望進路を実現する	全員の希望進路実現	90%	100%	100%	B	生徒全員の進路が決定した。	進路指導

【評価結果の分析】

- ・2学期途中から、JSTの先生にも来ていただき、年度内に生徒全員が希望する進路に決定した。

【今後の改善方策】

- ・学校が閉校するということから、卒業後の追指導については、公の機関を周知するとともに個人的に連絡するなどの方法を取る。

平成21年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	45	学校名	広島県立江田島高等学校	校長氏名	山下 憲邦	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

- ・学校HPに体育祭や文化祭等の学校行事毎に生徒の活動状況を載せるとともに、事務からの連絡事項なども幅広く情報を発信することで、情報発信の役割を十分果たした。
- ・本年度から新たに江田島高校便り「古鷹山」を年4回発刊、また、PTA新聞を年3回発刊し、保護者への情報提供回数年間7回発刊の目標を達成したうえ、学校での生徒の活動の様子や行事予定などの情報を保護者により細かく行うことができ、保護者からもよくわかると好評であった。
- ・学習満足度は87.2%で、昨年度の実績値より約7ポイント上昇し、85%以上という目標値を達成した。「授業を受けて『できた』『わかった』と感ずることがあった」という項目に対する肯定的な回答は91.5%、「できないところがあっても励ましてくれた」に対しては92.0%である。否定的な回答は「授業中できないときにはほめてくれた」が21.9%で最も多いが、1学期調査の34.0%と比べ、大きく減少した。
- ・教職員研修は、研究授業、発達障害、情報モラルなど年間12回の計画を全て実施し、多岐に渡り、研修を深めることができた。
- ・遅刻については、毎日の登校状況を表にして掲示し、生徒の意識向上を喚起した結果、昨年度に比べて遅刻が大幅に減少した。また、生徒指導主事による講話、クラス担任の粘り強い指導も成果をあげたと考えられる。
- ・服装や髪型に関しては、校門指導をはじめ全教職員で意識統一して服装指導に取り組んだ結果、違反する生徒の数は大幅に減少した。
- ・昨年度から継続している取組みとして、生徒指導主事以外にもさまざまな立場の教員が講話を行うことにより、生徒の規範意識ややる気の向上が十分に見られた。
- ・教務通信の発刊や試験対策プリントの作成などを行い、学習習慣の定着が図ることができた。
 - (1) 試験のポイント・学習方法を伝える教務通信「チャレンジ」の発刊：10回
 - (2) 学習時間調査の実施：5回
 - (3) 課題等が未提出の生徒に対し個人リストを作成し、学習を促す：2回
 - (4) 定期試験対策として、授業で試験範囲の復習を行うとともに、試験対策プリントなどを配付する：5回

(2) 課題

- ・閉校後も一定の期間はHPを存続し、各種証明書の発行等に混乱を来さないよう引継ぎ校の案内を行う。HP運営形態の具体的な検討が必要である。

2 今後の改善方策

- ・平成22年3月31日で本校は閉校である。4月からは、江田島高校での経験を十分に活かすとともに、所在地において、必要とされる人材となるよう全教職員とも鋭意努力していく所存である。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- ・卒業後、生徒に何かあったときに相談できる環境が必要である。特に、個人的に相談できる繋がりを持ち続けてほしい。
 - ⇒ハローワーク等を紹介しておくとともに、担任等、個人的な繋がりでも相談できるように配慮する。
- ・生徒指導に関する学校の取組みは、十分な成果があったと認められる。
- ・少人数であることで生徒たちは、教員から至れり尽くせりで育ててもらっている。
- ・卒業生が卒業証明書など、今後はどこへもらいに行けばいいのかの周知をお願いする。
 - ⇒引継ぎ校については、閉校式参加者にその旨を記載した文書を配付するとともにHPに掲載して周知する。
- ・学校が校舎もグラウンドもいつも非常によく整備してあることは、評価に値する。このような環境であるため、生徒が非常に落ち着いていると考える。
- ・閉校式はとても素晴らしい式であった。生徒の服装、挨拶、態度などどれをとっても素晴らしく、感激して涙が止まらなかった。このような式典は、校長を中心に教職員が一致団結しなければいけないものではない。校長をはじめ、教職員の皆様に敬意を表する次第である。

平成21年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成22年3月31日

校番	45	学校名	広島県立江田島高等学校	校長氏名	山下 憲邦	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	・目標、指標、計画等の設定については、概ね適切にされている。 ただし、年間遅刻者数については、指標を「100人以下」とするよりも「0人」を目標にするべきではないかという意見もいただいた。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	・それぞれの目標の達成状況の評価については、概ね適切であった。 むしろ、年間遅刻者数等、目標値に対して達成しているにも関わらず、全体的に厳し過ぎる評価のように考えられる。Aの評価で十分によい。
目標達成に向けた取り組みの適切さ	A	・目標達成に向け、細かく計画を立てられ、学校行事などでいつ学校を訪れても、教職員全員で熱心に取り組んでいる様子が大変よく分かり、取り組みについて適切である。
評価結果の分析の適切さ	A	・項目ごとに細かく評価結果を分析しており、適切である。
今後の改善方策の適切さ	A	・改善方策どおり、全教職員が江田島高校での経験を十分に活かし、活躍を期待している。

総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「惜しまれながら閉校」の学校経営目標どおりの実践をされた。 ・学校が校舎もグラウンドもいつも非常によく整備してあることは、評価に値する。このような環境であるため、生徒が非常に落ち着いていると考える。 ・閉校式はとても素晴らしい式であった。生徒の服装、挨拶、態度などどれをとっても素晴らしく、感激して涙が止まらなかった。このような式典は、校長を中心に教職員が一致団結しなければいけないものではない。校長をはじめ、教職員の皆様に敬意を表する次第である。
------	---	---